

会 長 あ い さ つ

宮崎県校長会長 久保 春夫

新学期が始まり、各学校では、教育目標の具現化に向けて、校長先生方がリーダーシップを発揮され、推進されていることと存じます。

本年度県校長会の会長を務めさせていただくことになりました宮崎市立小戸小学校の久保です。新役員を代表しまして、ごあいさつを申し上げます。

さて、ご承知のとおり、本年度の県校長会のスタートは、例年と違うものとなりました。国内で、新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、現在、未だ終息に向けた見通しがもてない状況にあります。

また、本県におきましても、通常の教育活動の遂行に向け予断を許さない状況が続いております。そういう状況の中、県校長会研修会を4月17日に予定しておりましたが、県内の全校長が学校を留守にすることへの危惧等、様々な観点から中止やむなきとの判断に至りました。そして、会則を変更させていただき、各支会長の皆様のご承認を得て、新体制による県校長会をスタートした次第です。

この3月末の定期異動により、小中学校82名の先生方がご勇退をされました。そして、小学校41名、中学校17名の先生方が新たに校長に採用され、また、5名（小4名、中1名）の先生方が再任用、22名の先生方が県教育委員会より転入されました。お祝いと歓迎の言葉を申し上げます。誠におめでとうございます。どうぞ、これまで培ってこられた経験と力量をもとに、新たな感覚で、学校経営にご尽力くださいますようお願い申し上げます。

さて、本年度より大きな教育改革であると言われております新学習指導要領の全面実施が小学校で始まりました。「社会に開かれた教育課程」が重視され、「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けた優れた授業実践など、何を教えるかに加え、どのように学ぶのかという部分についても求められており、これから求められる資質・能力を身に付けさせるという大きな責任が課せられております。また、教員の大量退職や新規採用職員の大量採用によるOJTの推進の在り方、さらに大きな問題となっております「働き方改革」への対応も重要であります。ワークライフバランスの観点から、我々校長自身が業務の選択と集中を意識した働き方改革を考えていかなければなりません。県校長会としましても、時代の流れに応じた改革にも取り組むべき時が来ております。また、このほか、学校には、児童生徒の学力向上、生徒指導上の諸問題、保護者対応等など、様々な喫緊の課題も山積しております。

校長として、このような状況や今後の教育に求められる学校の使命を十分に理解し、明確な学校経営ビジョンのもと、マネジメントすることが一層重要となってまいります。

学校が抱える課題は、ますます複雑で多様化してきておりますが、本年度も「創意と英知を結集し、組織で行動する校長会」のスローガンのもとに、県内335名の会員が、自分一人で問題を抱え込むことなく、心を一つにして、結束して諸課題の解決に当たる校長会でありたいと考えております。

県内11支会の小中学校代表理事の校長先生におかれましては、各支会をしっかりとまとめられるとともに、支会を代表して理事会に参加していただき、毎回、貴重なご意見や情報等をお聞かせいただいております。また、各専門委員会、特別委員会にも多くの校長先生方にご協力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

7月には、これまで2日間の開催でありました県校長研究大会を、本年度より1日間に縮小して開催いたします。本部役員や研修委員会を中心に、充実した大会になるよう、大会に向け準備を進めてまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、私たち役員一同、歴代校長会の先輩方がご苦勞を積み重ねて築いてこられた、これまでの歴史ある流れを大切にするとともに、県内の校長先生方の思いや願いに応えながら、校長先生方が学校経営で十分力を発揮され、ますます成果をあげることができるよう、全力で職責を全うしたいと考えております。

微力ではありますが、精一杯努力していく覚悟でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和2年5月